

はじめに

「計画のない目標はただの願い事に過ぎない」

ーアントワヌ・ド・サン＝テグジュペリ（フランス作家）ー

今日一日のことを振り返ってみてください。あなたは何にお金を使いましたか？
私たちはお金を介して物やサービスを売り買いするという、貨幣経済社会の中で暮らしています。仕事においてもプライベートにおいても、一日もお金と関わることなく過ごすことは難しいのではないのでしょうか？

その一方、クレジットカードや電子マネーによる決済の普及、インターネットバンキングの広がりにより、一日の中で一度も実物のお金に触れることなく過ごすことは珍しいことではなくなりました。

また、大きな支出である税金や社会保険料も、給与所得者である社員は、その給与の中から源泉徴収、控除されることにより納付をしているために、実際の納付額を知らないまま過ごしている方も多いと思われます。

このように、普段生活の中でお金を使うということへの実感が失なわれつつあります。

1990年代のバブル経済の崩壊以降、金融危機、ITバブルとその崩壊、リーマンショック、EU危機など、私たちは大きな社会経済の変化のうねりの中にあります。また、超少子高齢化の進行によって人口構造が大きく変化してきたことにもない、社会保障の大きな見直しも進められています。

これまで私たちの生活は、充実した社会保障や手厚い退職金、終身雇用や年功序列といった雇用制度に守られてきました。しかしこれからは、国や社会の仕組みだけに頼るのではなく、自身の人生設計は自分の手で作り上げることが求められる時代になるでしょう。お金に対しての実感が希薄になりつつあり、また日本の人口構造や社会経済といった、一個人では抗うことのできない大きな変化の中で、お金が全てとはいわないまでも、少なくともお金と上手に付き合う術は重要な要素となるでしょう。

人生におけるお金に関わることは、非常に多岐に渡りますが、その中でも重要性が高く身近なテーマを、このテキストの中では取り上げていきます。

そして学んだことを実践する場は、皆さんの日々の生活の中にあるのです。

森川 敏彦（もりかわ としひこ）

※ このテキストは、平成 28 年 12 月現在における法制度等に基づいて作成しています。

目次とスケジュール

さあ、それではテキスト学習に入ります。途中で投げ出したりしないために、計画を立ててから取り組みましょう。自分自身のペースに合わせて無理のない計画を立てましょう。

1日2項目を学習するのが平均的なスケジュールです。

は、診断で間違ったところやこれは特に重要だ、覚えておきたいという項目をチェックするために使いましょう。

章	内 容	P	予定日	終了日
1	なぜ、お金のことを学ぶのか①	10		
	<input type="checkbox"/> 1 お金のことを学ぶ時に大切なこと	10	/	/
	<input type="checkbox"/> 2 バブルを越えて	11	/	/
	<input type="checkbox"/> 3 少子高齢化社会	12	/	/
	<input type="checkbox"/> 4 自助努力・自己責任の時代	13	/	/
	<input type="checkbox"/> 5 2050年の日本に生きる	14	/	/
2	なぜ、お金のことを学ぶのか②	15		
	<input type="checkbox"/> 6 ファイナンシャルリテラシーを身に付ける①	15	/	/
	<input type="checkbox"/> 7 ファイナンシャルリテラシーを身に付ける②	16	/	/
	<input type="checkbox"/> 8 未来を読む：ライフプランを作る①	17	/	/
	<input type="checkbox"/> 9 未来を読む：ライフプランを作る②	18	/	/
	<input type="checkbox"/> 10 現状を知る：家計のバランスシート	19	/	/
3	税金のこと	20		
	<input type="checkbox"/> 11 税金のこと	20	/	/
	<input type="checkbox"/> 12 身近な所得税の計算方法	21	/	/
	<input type="checkbox"/> 13 年末調整でなぜお金が戻るのか	22	/	/
	<input type="checkbox"/> 14 その他の税金①	23	/	/
	<input type="checkbox"/> 15 その他の税金②	24	/	/
4	社会保障のこと①	25		
	<input type="checkbox"/> 16 社会保障とは？	25	/	/
	<input type="checkbox"/> 17 公的年金保険の3つの給付	26	/	/
	<input type="checkbox"/> 18 老齢年金	27	/	/
	<input type="checkbox"/> 19 ねんきん定期便の見方	28	/	/
	<input type="checkbox"/> 20 遺族年金と障害年金	29	/	/
5	社会保障のこと②	30		
	<input type="checkbox"/> 21 公的医療保険の3つの給付①	30	/	/
	<input type="checkbox"/> 22 公的医療保険の3つの給付②	31	/	/
	<input type="checkbox"/> 23 公的介護保険の仕組み①	32	/	/
	<input type="checkbox"/> 24 公的介護保険の仕組み②	33	/	/
	<input type="checkbox"/> 25 社会保険でおさえおきたい2つのこと	34	/	/

目次とスケジュール

章	内 容	P	予定日	終了日
6	医療のこと	35		
	<input type="checkbox"/> 26 長生きというリスク	35	/	/
	<input type="checkbox"/> 27 データから見る医療保障①	36	/	/
	<input type="checkbox"/> 28 データから見る医療保障②	37	/	/
	<input type="checkbox"/> 29 データから見る医療保障③	38	/	/
	<input type="checkbox"/> 30 これからの医療保障の傾向	39	/	/
7	介護のこと	40		
	<input type="checkbox"/> 31 介護の現状	40	/	/
	<input type="checkbox"/> 32 介護にかかる費用のこと	41	/	/
	<input type="checkbox"/> 33 介護の準備	42	/	/
	<input type="checkbox"/> 34 介護の準備とこれから	43	/	/
	<input type="checkbox"/> 35 医療費と介護費用が異なること	44	/	/
8	損害保険のこと	45		
	<input type="checkbox"/> 36 リスクと貯蓄と保障	45	/	/
	<input type="checkbox"/> 37 モノの保険、人の保険①	46	/	/
	<input type="checkbox"/> 38 モノの保険、人の保険②	47	/	/
	<input type="checkbox"/> 39 損害保険の種類	48	/	/
	<input type="checkbox"/> 40 保険と税金	49	/	/
9	生命保険のこと①	50		
	<input type="checkbox"/> 41 生命保険の基本①	50	/	/
	<input type="checkbox"/> 42 生命保険の基本②	51	/	/
	<input type="checkbox"/> 43 生命保険の基本③	52	/	/
	<input type="checkbox"/> 44 死亡（高度障害）の保険	53	/	/
	<input type="checkbox"/> 45 医療の保険と資金準備の保険	54	/	/
10	生命保険のこと②	55		
	<input type="checkbox"/> 46 保険証券の見方	55	/	/
	<input type="checkbox"/> 47 保障額の決め方	56	/	/
	<input type="checkbox"/> 48 契約後にできること	57	/	/
	<input type="checkbox"/> 49 生命保険と上手につきあう方法①	58	/	/
	<input type="checkbox"/> 50 生命保険と上手につきあう方法②	59	/	/
	<input type="checkbox"/> 添削問題		/	/

目次とスケジュール

章	内 容	P	予定日	終了日
11	マネープランニング①	62		
	<input type="checkbox"/> 51 なぜ資産形成は必要なのか	62	/	/
	<input type="checkbox"/> 52 貯金をする	63	/	/
	<input type="checkbox"/> 53 株式に投資する	64	/	/
	<input type="checkbox"/> 54 債券に投資する	65	/	/
	<input type="checkbox"/> 55 外貨建て金融商品に投資する	66	/	/
12	マネープランニング②	67		
	<input type="checkbox"/> 56 不動産に投資する	67	/	/
	<input type="checkbox"/> 57 生命保険を活用する	68	/	/
	<input type="checkbox"/> 58 リスクを分散する	69	/	/
	<input type="checkbox"/> 59 2つのルール	70	/	/
	<input type="checkbox"/> 60 4つの財布を作る	71	/	/
13	ライフプラン①	72		
	<input type="checkbox"/> 61 ライフプランとは	72	/	/
	<input type="checkbox"/> 62 ライフプランモデル	73	/	/
	<input type="checkbox"/> 63 ライフプラン作成のポイント①ライフイベント	74	/	/
	<input type="checkbox"/> 64 ライフプラン作成のポイント②収入	75	/	/
	<input type="checkbox"/> 65 ライフプラン作成のポイント③生活費	76	/	/
14	ライフプラン②	77		
	<input type="checkbox"/> 66 ライフプラン作成のポイント④住宅費と教育費	77	/	/
	<input type="checkbox"/> 67 その他の収入と支出	78	/	/
	<input type="checkbox"/> 68 ライフプランからわかる問題点と解決方法	79	/	/
	<input type="checkbox"/> 69 プラン作成後に注意すること	80	/	/
	<input type="checkbox"/> 70 プラン B を作る	81	/	/
15	住宅のこと①	82		
	<input type="checkbox"/> 71 賃貸派 vs 購入派	82	/	/
	<input type="checkbox"/> 72 住宅にかかる税金	83	/	/
	<input type="checkbox"/> 73 購入前に知っておきたいこと①確認する	84	/	/
	<input type="checkbox"/> 74 購入前に知っておきたいこと②準備する	85	/	/
	<input type="checkbox"/> 75 購入前に知っておきたいこと③ローンの組み方	86	/	/

目次とスケジュール

章	内 容	P	予定日	終了日
16	住宅のこと②	87		
	<input type="checkbox"/> 76 購入前に知っておきたいこと④返済方法の選択	87	/	/
	<input type="checkbox"/> 77 購入前に知っておきたいこと⑤金利のタイプの選択	88	/	/
	<input type="checkbox"/> 78 購入前に知っておきたいこと⑥優遇されること	89	/	/
	<input type="checkbox"/> 79 購入後に検討したいこと①繰り上げ返済	90	/	/
	<input type="checkbox"/> 80 購入後に検討したいこと②借り換える	91	/	/
17	教育資金のこと	92		
	<input type="checkbox"/> 81 日本の就学環境と教育費の現状	92	/	/
	<input type="checkbox"/> 82 教育資金の準備①借りる	93	/	/
	<input type="checkbox"/> 83 教育資金の準備②もらう	94	/	/
	<input type="checkbox"/> 84 教育資金の準備③生命保険の活用	95	/	/
	<input type="checkbox"/> 85 教育費に関わる見えないリスク	96	/	/
18	リタイアメントプラン①	97		
	<input type="checkbox"/> 86 人生 90 年の設計	97	/	/
	<input type="checkbox"/> 87 なぜリタイアメントプランニングが必要なのか①	98	/	/
	<input type="checkbox"/> 88 なぜリタイアメントプランニングが必要なのか②	99	/	/
	<input type="checkbox"/> 89 退職時の貯蓄の目標額を知る	100	/	/
	<input type="checkbox"/> 90 退職時のマイナスの財産	101	/	/
19	リタイアメントプラン②	102		
	<input type="checkbox"/> 91 退職時の資産の内訳を考える①	102	/	/
	<input type="checkbox"/> 92 退職時の資産の内訳を考える②	103	/	/
	<input type="checkbox"/> 93 退職時の資産の内訳を考える③	104	/	/
	<input type="checkbox"/> 94 リタイアメントプランニングのケーススタディ	105	/	/
	<input type="checkbox"/> 95 これからのリタイアメントプランニング	106	/	/
20	相続のこと	107		
	<input type="checkbox"/> 96 相続問題≠相続税	107	/	/
	<input type="checkbox"/> 97 相続の3つの準備①遺産分割	108	/	/
	<input type="checkbox"/> 98 相続の3つの準備②納税資金準備	109	/	/
	<input type="checkbox"/> 99 相続税の3つの準備③課税評価の引下げと生命保険の活用	110	/	/
	<input type="checkbox"/> 100 「終活」とかっていい相続	111	/	/
	<input type="checkbox"/> 添削問題		/	/

第1章～第10章

税金・年金・介護・保険編

お金のことを学ぶ時に大切なこと

学習のポイント

POINT ① 記憶は覚えた直後にその大部分が失われる

POINT ② 1ページ1アクションを試みる

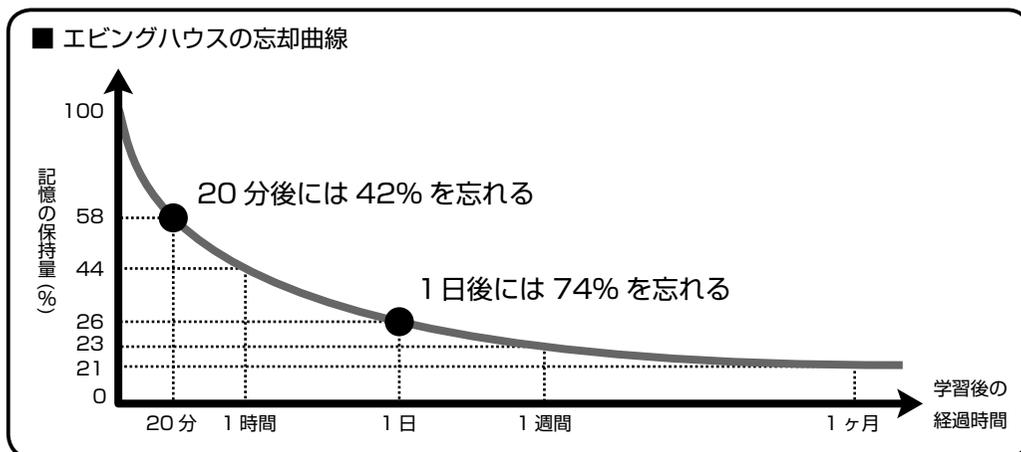
みなさんは、「お金」に関する知識を得たいという意欲をもって本コースを受講されたことと思います。「早くお金の知識をたくさん手に入れたい!」という気持ちが強いです。しかし本格的な解説を始める前に、ぜひみなさんにお伝えしたいことがあります。それは、「学んで終わりにしない」ということです。

今から100年以上前、エビングハウスというドイツの心理学者が人間の記憶に関するこんな実験を行ったそうです。ランダムに並べられたアルファベットの文字列を試験者が覚え、それがどのようなスピードで忘れられていくかというものを計測したものです。この結果、記憶したもののうち、20分後には42%を忘れ、1時間後には56%、1日後には74%、1週間後には77%、そして1ヶ月後には79%を忘れ、残った記憶は徐々に定着していくという実験結果を得ました。つまり、記憶は覚えた直後にその多くのことを忘れ、残ったものだけが長期間記憶に定着するというのです。

こうした「忘却」は、人間に備わった基本的な機能です。とはいえ、せっかく講座を受講したのにあまり記憶に残らなかった、というのは、少々もったいないのではないのでしょうか。特に「お金」という、人生における大きなテーマであるならなおさらです。

そこで本コースでおすすめしたいのが、「1ページ1アクション」という習慣です。各ページを学んだら、そこで学んだことを受けてこれから自分がやるべき「アクション」を一つリストアップし、それが実行できたらチェックしていくというものです。アクションの内容は、ちょっとしたことでかまいません。大切なのは、学んだことを何らかの形で実践してみるということです。

このテキストで学んだことも、記憶だけに頼るとその大部分はあっという間に失われます。ただ「学んで終わり」としないために、なんらかのアクションを実践しながら読み進めてみてください。



1

なぜ、お金のことを学ぶのか①

バブルを越えて

学習のポイント

POINT 1 バブル経済の崩壊は日本経済の大きな転換点となった

POINT 2 バブル経済崩壊後、お金のことを学ぶ機運が高まった

1980年代後半から90年代初頭にかけての日本経済を特徴づける言葉に、「バブル経済」という言葉があります。「あの頃の経済を支えていたのは、実体を超えて膨れ上がった泡のようなマネーだった」という、ある種の自戒を込めて使われるようになった言葉です。

当時の日本は、金融機関からの信用供与が積極的で、個人の資金調達、つまり銀行からお金を借りることが比較的容易に行われていました。借りたお金を背景にした個人消費も意欲的で、不動産や株式への投資も非常に盛んに行われていました。その背景には、「不動産や株式の価値は将来必ず上昇する」という価値観がありました。

借りたお金で購入した不動産や株式を担保に新たな融資が生まれ、新たに調達した資金でさらなる不動産の購入や株式への投資が行われていました。旺盛な購買意欲、投資意欲の中で物の価値、不動産や株式の価格は次第に実態とはかけ離れたものになっていったのです。

その後、1989年12月に日経平均は史上最高の38,957円を記録しました。翌1990年をピークに不動産価格、株価ともに一気に下落し、泡のように膨れ上がった経済は一気に崩壊したのです。資産価値の下落は債務返済能力の下落をもたらし、貸付側の金融機関は、返済の見込みの立たない巨額の債務（不良債権）を抱えることになりました。

多額の不良債権は金融機関の体力を奪い、大手の証券会社や銀行などの再編が進みました。バブルの負の遺産を処理する中で、金融機関の国際的な競争力の確立と自由化を目的として、閉鎖的だった日本の金融システムの改革が進められてきました。日本版金融ビッグバンです。

一方、個人においても、金融機関と上手につき合うためにお金に関して学ぶことが求められるようになりました。

このように、バブル経済崩壊という経験は、個人においてもお金について学ぶという機運を高める大きなきっかけとなったのです。

■バブル崩壊が大きな転換点に



2

なぜ、お金のことを学ぶのか①

少子高齢化社会

学習のポイント

POINT 1 社会保障制度は人口構造の変化にともなって制度改革が行われてきた

POINT 2 2050年には肩車型社会が到来すると予想されている

1950年頃の日本の人口分布図は、きれいな三角形の形をしていました。その形から、人口分布図=人口ピラミッドと言われていた時代です。日本の社会保障の基盤ができたのもこの頃で、豊富な生産年齢人口が少数の高齢者を支えるという考え方で、社会保障の仕組みが設計されました。

時代を経て現在、日本の男性の平均寿命は80歳を超え、女性も87歳に達しました。その一方、合計特殊出生率は様々な国の施策にも関わらず相変わらず低いレベルで推移しており、その結果、超少子高齢化社会ともいべき社会が現実のものとなってきています。

このまま少子高齢化が進んだ時の日本の姿というものを、国立社会保障・人口問題研究所が発表しています。2050年の時点の日本全体に占める65歳以上の割合は、実に40%に迫るという推計が出されています。生産年齢人口(15~64歳)の割合が、63.9%(2010年)から51.1%(2050年)になるという推計もあわせて見てみると、この

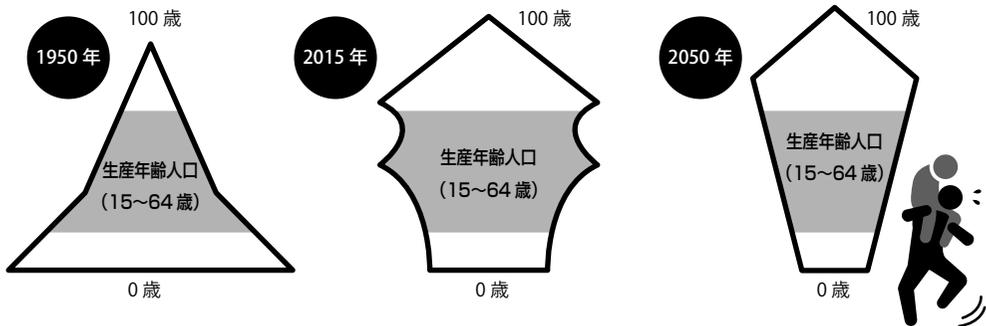
数字の重みがわかるのではないのでしょうか。

公的年金などの社会保障制度は、税金や社会保険料が財源となっていますが、それらの資金は将来の支払いのために蓄えられるのではなく、今現在の給付に充てられる形をとっています。いわゆる「賦課方式」です。そのため、65歳以上の割合が増えることは、現役世代の負担を確実に増やすことを意味します。

これまでも社会保障は「改革」を繰り返すことで、社会変化に対して対応をとってきました。社会保障の給付を減らす一方で、社会保険料や税の負担を増やし財源を確保するという形です。しかし、大勢の生産年齢人口が1人の高齢者を支えていたという時代は過去のものとなり、2050年には1人の高齢者を1.25人で支えるという、いわゆる肩車型の社会が到来すると試算されています。

これまで人口動態の変化の中で社会保障のバランスをとってきたということを鑑みると、2050年の姿は今よりも社会保障の内容が厳しいものになることは想像に難くありません。

■急速に変化する人口ピラミッド



※「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」(国立社会保障・人口問題研究所)をもとに作成
<http://www.ipss.go.jp/svoushika/tohkei/newest04/sh2401top.html>

3

なぜ、お金のことを学ぶのか①

自助努力・自己責任の時代

学習のポイント

- POINT ① 国や社会の仕組みが個人の人生を手厚く守る時代は終焉を迎えている
- POINT ② 人生設計に「自助努力」「自己責任」が求められる

バブル経済崩壊後、日本では「自助努力」「自己責任」という言葉がよく聞かれるようになりました。これはなぜなのでしょう。

日本国憲法第25条には、「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」という条文があります。いわゆる「生存権」です。日本国憲法に定めるこの生存権に基づいて、現在の社会保障の基礎は作られました。

1950年代から1960年代にかけて、社会保障の黎明期ともいわれるこの時期、税金や社会保険料で支えられる社会保障は、高度経済成長という背景とあいまって、将来に渡って充実した財源が続くものと期待されていました。ところがその後、日本の少子高齢化は、先進国の中でも類を見ないスピードで進んでいきました。また、1990年代初頭のバブル経済崩壊以降、失われた…という言葉で形容される通り、長期にわたり経済成長が停滞しました。

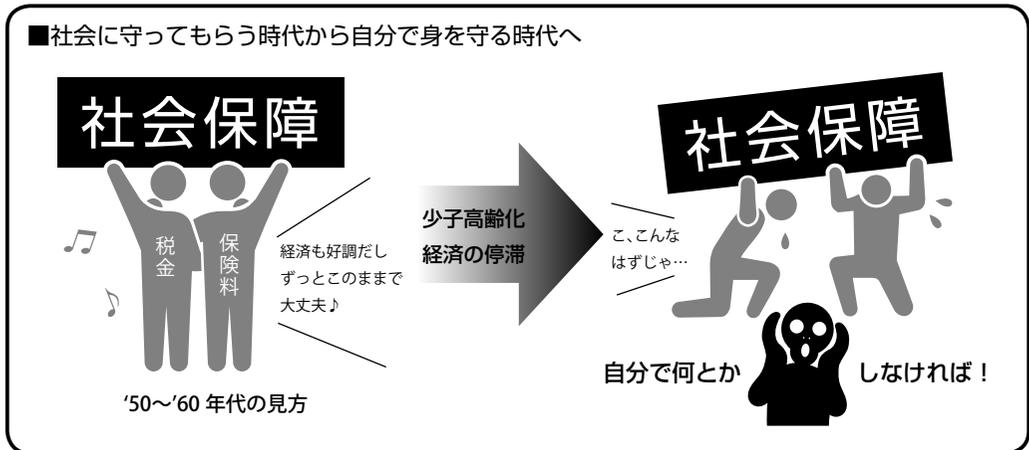
このような急速な日本の人口構造の変化や

社会経済の変容によって、日本の社会保障制度は、当初の設計からの大きな変更を余儀なくされたのです。

また、近代日本の伝統的な雇用環境、雇用形態といったものにも、大きな変化がみられるようになってきました。

例えば日本の企業には、雇用が長期間に渡って保障される「終身雇用」や、企業への在籍年数に応じて待遇が約束される「年功序列」といった特徴的な雇用環境がありました。給与の後払いの性格を持つ「退職金制度」も、安定的な雇用環境を守り、従業員の退職後の生活を守る制度の一つでした。しかし、人材の流動化が一般的となり、長期間に渡って雇用が守られる前提条件は大きく崩れつつあります。

安定的に見えた私たちの人生、国や社会の仕組みに守られてきた個人の人生設計には、自分で自分を守る「自助努力」、そして自分で選択し、その責任を負う「自己責任」が求められるようになったのです。



2050年の日本に生きる

学習のポイント

POINT 1 日本はすでに少子高齢社会と認識する

POINT 2 現実を学び未来に備えることも忘れない

国立社会保障・人口問題研究所が発表した、2050年の日本の姿は次の通りです。

現在1億2,000万人余りの日本の総人口は、2050年には9,700万人へと減少し、65歳以上の高齢者人口は、現在の3,000万人から3,600万人に増加するというものです。全人口に占める65歳以上の高齢者の割合が、現在の25%から2050年には約37%、人口の10人のうち4人を高齢者が占めるというのがその内容です。

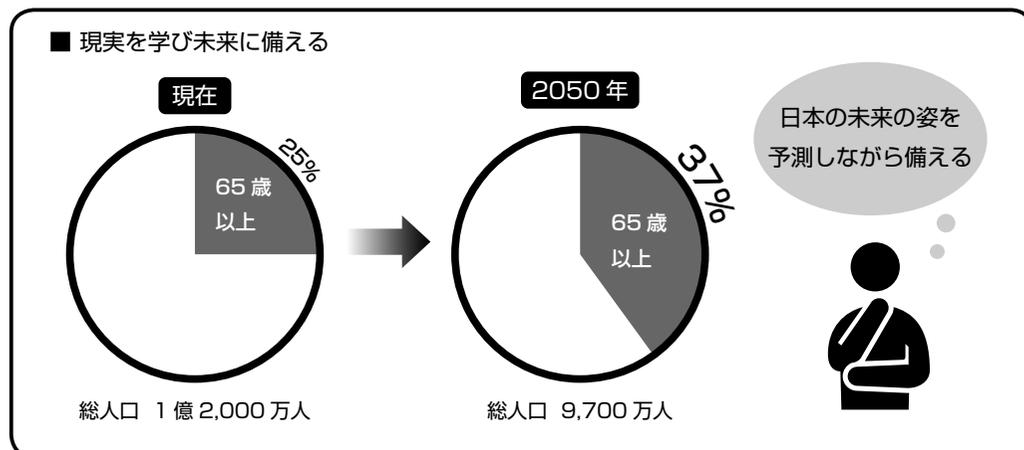
このように、日本は世界でも類を見ないスピードで、少子高齢化が進むといわれています。

日本の高齢化を顕著に表すデータとしてよく出される平均寿命は、男性80.98歳、女性87.14歳(2016年厚生労働省)となっています。平均寿命は0歳の子供の平均余命を指している言葉です。一方、65歳の人々の平均余命は、男性は19.46年、女性は24.31年となります。つまり、男性は85歳、女性は90歳という年

齢が、65歳まで存命であった人たちの平均的な寿命と考えられます。これまで80年といわれていた人生設計は、90年という期間まで考慮すべき現実となってきました。

一方、日本人女性の合計特殊出生率は、1.46人(2016年厚生労働省)に留まっており、総人口の減少に歯止めがかかっていない状況にあります。これらの現状から、超少子高齢化といわれた日本の社会は、もうすでにその「化」が外れた少子高齢社会であるともいわれています。

大きな変化の中にあって、現状を知ることでも大切ですが、同時に未来を予測しながら将来に備えることも忘れてはなりません。例えば「年金の支給が20%カットされたら」「定年が70歳まで延長されたら」「医療費の自己負担額が増えたら」などの将来を予測しながら、その一歩先に備えるという考え方も必要になってくるでしょう。



ファイナンシャルリテラシーを身に付ける①

学習のポイント

POINT ① お金の基礎を学ぶことを、ファイナンシャルリテラシーという

POINT ② 自助努力・自己責任の時代に、ファイナンシャルリテラシーは不可欠である

「ファイナンシャルリテラシー」という言葉をご存じでしょうか。読み書きを習うようにお金について学ぶことを意味する言葉です。では、「お金を学ぶ」とはどういうことなのでしょう。

例えば、算数を学ぶ時の足し算や引き算、九九、英語を学ぶ時の単語、熟語など、何かを学ぶ時には必ずその基礎の習得が求められます。

これらは学校教育や家庭教育を通じて身に付けていくものですが、「お金」についてはどうでしょうか。一部の学校を除いて、学校の授業の中でお金を学ぶという機会はなく、せいぜい家庭の中で「無駄遣いはだめ」「お金を大切にしろ」などと、しつけの範囲で行われることが多いのではないのでしょうか。その背景には、他人との間でお金についてこと細かく話すことを良しとしない、日本独自の価値観や風潮があります。

海外では、お金について学ぶことは、家庭の中でも学校教育においても、大切な教育テ

ーマの一つです。そのため、子供の頃からお金の大切さや知識が身に付いていく傾向にあります。

また、多くの国々では、日本の納税制度と異なり、自分の税金を自身で計算し納付する「申告納税制度」がとられています。そうした国では納税している感覚が強いため、税金の使われ方にも非常に敏感です。

それに対して日本では、勤務先が税金や社会保険料の計算や納付手続きを行い、自身が一年の間にどれだけの所得税、住民税を払っているか、あるいは社会保険料をいくら払っているかということに、海外ほど敏感ではない人が多いのではないのでしょうか。

しかし、これからは自助努力、自己責任の時代です。個々人がお金と向き合い、自分で判断し、責任を負う機会が確実に増えていきます。そのような背景もあり、「ファイナンシャルリテラシー」が重視されているようになってきているのです。

